

原著論文

漢方薬の内服と食事関連指示について

『漢方の臨床』58巻9号(2011)別刷

○沢井 かおり・渡 辺 賢 治

原著論文

漢方薬の内服と食事関連指示について

○¹⁾²⁾ 沢井 かおり・¹⁾ 渡辺 賢治

要旨

現在日本で漢方薬は、原則として食前または食間に内服と指示されているが、『傷寒論』や『金匱要略』に内服の食事関連指示はほとんどない。そこで、『傷寒論』『金匱要略』『外台秘要方』『和剂局方』『万病回春』における内服の食事関連指示について検討した。その結果、内服の食事関連指示の記載は、時代を経るにつれ多くなっていた。これは、診療の現場からの要望によると推測される。また、いずれの時代にも空腹時の指示が多かった。空腹時内服の利点は、現代薬理学的に説明されているが、それ以前から経験的に知られていたと思われる。

【キーワード】 漢方薬、服用指示、食事

はじめに

現在日本で漢方薬は、原則として食前または食間に内服するよう指示されている。しかし、『傷寒論』や『金匱要略』において、内服についての食事関連指示がある処方はずかである。内服の食事関連指示はいつ頃からなされるようになってきたのだろうか。またその指示内容に変化はあるのだろうか。これらについて、主要年代の代表的医学書や処方集を調査して検討した。

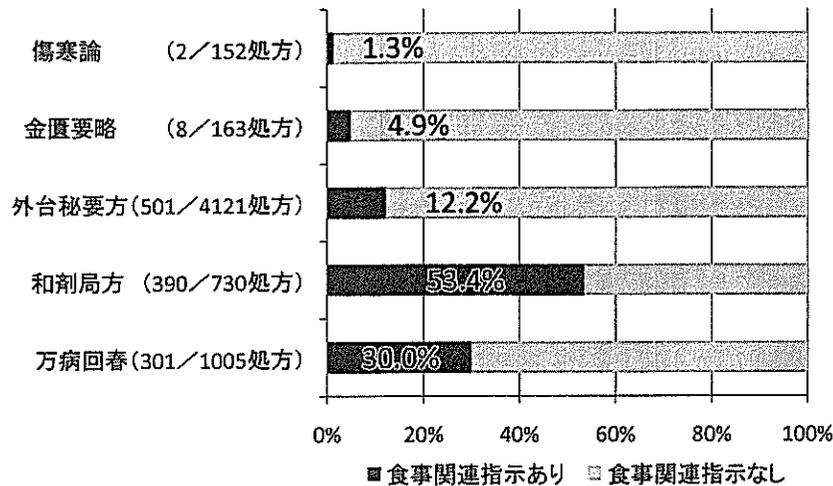
対象

対象は、3世紀初め後漢の『傷寒論』・『金匱要略』¹⁾、752年唐代の『外台秘要方』²⁾、1107年宋代の『和剂局

表1 食事関連指示の種類

空腹、空心、空吐、先食、先飯、先舗、食前、未食	→空腹時
食遠、間食	→食間
食後、飯後	→食後
食事服	→食事中
〈その他〉 病状・病位によるもの：`病が上にあれば食後、下にあれば食前、など 複数記載：`空心食後に服す、`食前後に酒服、など 「宿勿食旦服→空腹時」など、内容に応じて分類	

図1 食事関連指示のある処方割合



方法

内服処方方を調査し、食事関連指示があるものの割合と、その内容を検討した。内服処方方は、原則として構成生薬・製法・内服法の記載のあるものを対象とした。また、虫害・獣害・中毒・卒死など、緊急に用いるためまったく食事に関連しない疾病群は検討から除外した。『金匱要略』における附方も、後世追加されたものであるため検討から除外した。

結果

食事関連指示の種類は多岐にわたるが、「空腹・空心・空吐・先食」などの空腹時と、「食遠・間食」の食間、「食後・飯後」の食後、「食の時に服す」の食事中に分類した。その他、病状・病位によるものや、複数記載しているものなどがあった。また、一晩食べないで早朝に内服するものは空腹時に加えるなど、内容に応じて分類した(表1)。内服処方のうち食事関連指示の記載があるものの割合をみると、『傷寒論』は152処方中2処方(1.3%)、『金匱要略』は163処方中8処方(4.9%)とわずかであった。『外台秘要方』

方』、1589年明代の『万病回春』とした。

考察

食事関連指示のある処方方は、3世紀初めの『傷寒論』『金匱要略』ではわずかであるが、752年の『外台秘要方』では約1割とやや増加していた。1107年の『和剂局方』や1589年の『万病回春』では3〜5割とさらに増加しており、内服の食事関連指示は時代を経るにつれて多くなってきたことがわかる。

『傷寒論』の処方に食事関連指示がほとんどないのは、

は4121処方中501処方(12.2%)、『和剂局方』は730処方中390処方(53.4%)、『万病回春』は1005処方中301処方(30.0%)であった(図1)。食事関連指示の内容をみると、『傷寒論』と『金匱要略』では「先食・空心・空腹・食前」と、すべて空腹時であった(表2)。

『外台秘要方』、『和剂局方』、『万病回春』においても食事関連指示中の空腹時指示の割合は多く、それぞれ79.8%、66.9%、62.8%と、約2/3かそれ以上であった。さらに、現在の「食前または食間」にあたる空腹時+食間の割合はそれぞれ81.8%、67.4%、76.1%となり、7割から8割を占めた(図2)。

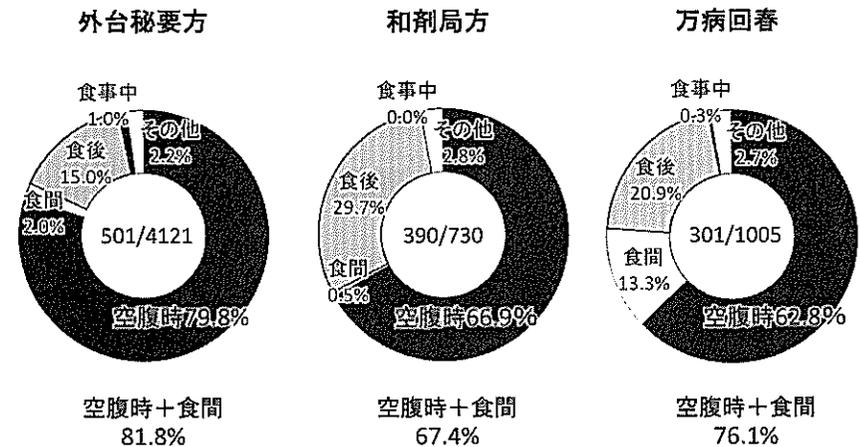
表2 食事関連指示の内容 (1)

《傷寒論》	
桃核承氣湯 (太陽病中篇)	先食温服
烏梅丸 (厥陰病篇)	先食飲服
《金匱要略》	
漿甲煎丸 (癰病篇)	空心服
薯蓣丸 (血痺虚勞病篇)	空腹酒服
赤石脂丸 (胸痺心痛短氣病篇)	先食服
赤丸 (腹滿寒疝宿食病篇)	先食酒飲下
防己椒目葶藶大黃丸 (痰飲咳漱病篇)	先食飲服
茵陳五苓散 (黄疸病篇)	先食飲
烏梅丸 (跌蹶手指臂腫轉筋陰狐疝蟲病篇)	先食飲服
桂枝茯苓丸 (婦人妊娠病篇)	食前服

『傷寒論』が急性感染性疾患の治療書であるからかもしれない。すなわち、急性病の治療としての処方食事に関係なく速やかに内服したり、頓用で用いたりすることが多いため、食事関連指示がないのであつて、時代による変化とは関係ないとも考えられる。しかし、同時代の『金匱要略』は主に慢性病に対する治療書であり、それ以降の処方集と比較することができ。その『金匱要略』では食事関連指示のある処方がわずかであることから、やはり食事関連指示は時代を経るにつれて多くなつてきたと言える。実際の診療の場では、食事との関連を含め内服方法について質問されることが多い。これは古今東西を問わないであろう。そのため、医療者からの要望により、診療の手引となる医学書や処方集に、食事関連指示が多く記載されるようになってきたことが推測される。

食事関連指示の内容では、空腹時指示が多かった。現在日本で漢方薬は、原則として食前または食間に経口投与すると指示されている。薬事法により医薬品には用法用量の記載が必須であることから、本来食事との関連を問わない処方も、横並びに指示されている可能性もある。しかし、空腹時内服には、現代薬理学的にも様々な利点があると言われ、腸内細菌のいる下部消化管への到達が早いことや、

図2 食事関連指示の内容 (2)



胃内pHが低いいためアルカロイドの吸収が遅く、中毒を起こしにくいこと、また漢方薬特有の味や香りが消化管の機能を高めることなどが挙げられている。さらに、食物と一緒にない方が配糖体に作用する細菌が多く、薬効が高いことや、食物や西洋薬との相互作用を回避することも空腹時内服の利点とされている。

もちろん、薬理学的知見が得られたのはここ数十年のことである。試行錯誤を繰り返して今の形になった東洋医学の歴史の中で、日常診療の中から経験的に空腹時内服の利点が認識されてきたと思われる。

しかし一方、中国や韓国では食後30分の内服指示が多いという。中国では漢方薬に使われる生薬の量が多いため、空腹では刺激が強すぎるということがひとつの理由とされている。この、中国や韓国と日本の内服方法の違いや、日本における食事関連指示の歴史の変遷は、今後の検討課題のひとつである。

最後に、「先食」について考察する。「先食」は、「食に先んじて」「食に先きたちて」と訓読し、「先食服」を食前内服とするのが一般的である。それに反して、「先づ食して」「先に食して」と訓読し、食後内服とすべきであると論説がある。ここではその是非は問わないが、「先食」

The instruction for taking kampo medicine in ancient time.

○¹⁾²⁾Kaori SAWAI, ¹⁾Kenji WATANABE

¹⁾ a Center for Kampo Medicine, Keio University School of Medicine, 35 Sinanomachi, Shinjuku-ku, Tokyo 160-8582, Japan

²⁾ Yokohama Municipal Citizen's Hospital, 56 Okazawacho, Hodogaya-ku, Yokohama-city, Kanagawa 240-8555, Japan

Summary

Kampo medicine should be taken before meal or between meals in Japan today. But there were few instructions when kampo medicine was taken in Shokanron and Kinkyoryaku. So we investigated the instructions for taking kampo medicine in Shokanron, Kinkyoryaku, Gedaihiyoho, Wazaikyokuho and Manbyokaishun. As a result, the instructions for taking kampo medicine increased in later days. And the instructions for taking kampo medicine in the fasting state and between meals were more than any other instructions. There are some pharmacological benefits to take kampo medicine in the fasting state. It is suggested that ancient doctors may have known the benefit of intake timing by these reasons.

Key Word : kampo medicine, instruction for taking medicine

を食後指示と解釈した場合の食事関連指示内容について検討する。

「先食」を食後指示とすると、『傷寒論』の食事関連指示2処方すべてと『金匱要略』の食事関連指示8処方中5処方が食後指示となる。しかし、『傷寒論』と『金匱要略』における食事関連指示処方の数は変わらない。

『外台秘要方』では、食事関連指示中の空腹時指示の割合が79・8%から59・9%に減少し、食後指示が15・0%から34・9%に増加する。しかしこの場合も、空腹時指示が6割を占め、食後指示は1/3に過ぎない。

『和剂局方』と『万病回春』には、「先食」の記載はなかった。

以上より、「先食」を食後指示と解釈しても、『傷寒論』と『金匱要略』において食事関連指示がわずかである。「その後の処方集では食事関連指示中の空腹時指示の割合が多い」という結論に変わりはなかった。

結 論

内服の食事関連指示の記載は、時代を経るにつれ多くなってきた。これは、診療の現場からの要望によると推測される。また、いずれの時代にも食事関連指示において空腹

時の指示が多かった。空腹時内服の利点は、現代薬理学的に解明されているが、それ以前から経験的に知られていたと思われる。

本研究は、第20回漢方治療研究会（東京、2010）における発表に加筆訂正したものである。

【参考文献】

- (1) 日本漢方協会学術部編…傷寒雜病論 三訂版、東洋学術出版社、市川、2000
- (2) 王燕…外臺秘要、國立中國醫藥研究所、臺北、1964
- (3) 陳師文 等撰…和刻漢籍醫書集成第四輯 増広 太平惠民和剂局方、エンタプライズ株式会社、東京、1988
- (4) 松田邦夫…万病回春解説 創元社、大阪、1989
- (5) 田代眞一…漢方薬の服用時期と食事との関係、薬局、52(2)、P 1138-1144、2001
- (6) 桜井謙介…「先食」について、漢方の臨床、56(2)、P 314-317、2009
- (1) 慶應義塾大学医学部漢方医学センター、
医師…〒160-8582 東京都新宿区信濃町35番地
- (2) 横浜市立市民病院産婦人科、
医師…〒240-8555 神奈川県横浜市保土ヶ谷区岡沢町56番地